

働き方・休み方改善 ハンドブックのご案内

多様な人材が企業価値と生産性を高める職場づくりをめざして

製造業(電機・電子・情報通信業編)



創造的な仕事をするためには
オフの時間も大切だけど、
適切に休みを取るには
どうしたらいいだろう？

理工系の大学院を
卒業する外国人など、
海外の人材を活用するために、
職場風土を改善したい。

男性社員を含めた
育児期間中の社員や
共働きの社員、
家族の介護をしながら
仕事を行う社員のための
取組事例を知りたい。



働き方・休み方の改善の取組事例を参考に 職場環境の見直しを行いましょう

- ・自社の働き方と休み方の実態を的確に把握することが大切です。
- ・いろいろな取組を組み合わせることによって、実効性が高まります。
- ・取組の効果を判断し、必要に応じて内容の見直しを行うことが重要です。

▼ハンドブックのダウンロードはこちらから▼

<http://work-holiday.mhlw.go.jp/handbook/index.html>





働き方・休み方の見直し 4つの体系と8つの項目



取組項目ごとに、企業における具体的な取組事例を紹介します。

1. Vision

その1 方針・目標の明確化

「『働き方改革』の推進」(キヤノン)
「『カエル運動』の展開」(シャープ) など

2. System

その2 改善推進の体制づくり

「労使検討委員会を立ち上げて取組」
(富士電機)

その3 改善促進の制度化

「社員の健康確保を目的とした
勤務間インターバル制度」(NEC)
「セルフサポート休暇制度の制定」(三菱電機)

その4 改善促進のルール化

「残業する部下について上司が申請」(沖電気)
など

4. Check

その8 実態把握・管理

「社員意識調査を各部門の改善施策の
立案・実行に活用」(東芝)
「人事部と労働組合が密に情報共有し、
ともに働き方に関するルールづくりを検討」
(オムロン) など

3. Action

その5 意識改善

「マネジメント研修における
労働時間管理の徹底」(富士通)
「取組のフォローアップと事例展開」(日立)

その6 情報提供・相談

「勤務実績状況のメール配信」(東芝)

その7 仕事の進め方改善

「生産効率向上に資する社内情報
検索システム」(日本IBM) など